ーネットで見つナー。

いう記事をイ

AI法規制を

人間にしか生み出せないものを大切を作り、守ることが一番の近道だと、それを実現するにも記事のように

らの社会の担い手として、自分に何ができ

るのかを考えてみてください。

とを結びつけてください。

。そして、これか

新聞を読み、身の回りの出来事と自分自身

小・中学生の皆さん、これからも進んで

業 うことを重要視するべきだという考えをもつこ在 のは私たちが守っていかなければならないとい できない。この新聞記事を読んで、AIの進歩い できない。この新聞記事を読んで、AIの進歩い できない。この新聞記事を読んで、AIの進歩し、とって、欠かせないものとなっている。しかし、し とって、欠かせないものとなっている。しかし、

その企業では、

私も



毎年開催されている。今回は、市内のYC(読売センター)のの関わりを持ち、考える力や立の関わりを持ち、考える力や立の関わりを持ち、考える力や立の関のでは、新聞を読むる に193点、 中学生の部に51点の応募が 新聞を読むことで社会と 考える力や文章力・ 今回は、 のサポートで 0年から熊谷 小学生の部 読解 め

を読んで感じ取ったことや思いをつづった10月10日には最終審査があり、新聞記事

あった。

受賞者に賞状とトロフィー

※掲載した作品は原文を極力尊重しました

京本社熊谷支局 佐藤秀憲支局長) 小・中学生新聞感想文コンクー 埼玉県北部読売会熊谷支部など後援、 が、 熊谷市内の小学5、 字5、6年生と中学生を対象坂、審査委員長・読売新聞東(読売新聞東京本社主催、熊

谷市教育委員会、

「第15回熊谷市

に行われた。

いと(熊谷市)で表彰式が催され、 などが贈

の部には鳥羽美紅さん (三尻中3年) 友里子さん(熊谷東小6年)、中学生力作の数々の中から小学生の部は齋藤

10月19日、熊谷文が最優秀賞に輝いた。 熊谷文化創造館さくら

8 月 7

8

(小学生の部)

フの記事かな? と思ったら、 最初に2つ すがおくってくれたグロのグローブの写真が日 、「脳死臓器提供家くってくれたグロー くってくれたグロー

この話は、40才のお父さんが突然、脳出血と事を探した。 事を探した。 な3回続く話だったので急いで前の新聞から記 がある。 いう病気でたおれてしまう話だった。この話は、40才のお父さんが突然、 手術をし が。

提供意思表示カード」へのサインだった。でも、じために役立てることができる、それが、「臓器」れからどんな治りょうをしても回復の見込みがれからどんな治りょうをしても回復の見込みがれからどんな治りょうをしても 回復の見込みがるいことをできず脳死と言う 臓器提供するか家族が決断することになった。このお父さんはカードへのサインがないため、

言 うにまだまだ元気に私と過ごしてもらいたいし るもの全部使って」と言った。そうならないよと なったらどうする?」と。お母さんは、「使え 私は、お母さんに聞いてみた。「もし脳死と記 生きている。 他の人に移植され、いたといる。

作品も多く寄せられました。

じいちゃんをむかえに行って家につれてくる。大切だと思った。夏休みの間にお盆がある。おを相手とよく話し合い、伝えあっておくことが私も、家族も、何かおきる前に自分の気持ち お墓には、知らない名前がたくさんほってある。 こうと思った。でも、もしもの時は、おかげで私はここにいる。一生けん

9日の新聞を読んでき 他の人に移植され、お父さんの命がつながってれました。お父さんの心臓、肺、肝臓、腎臓は、どんな気持ちだったのかなとすごく考えさせらえながら、「パパなら提供するよ」と言える勇気、 ちえたこと

います。

保護者や先生方のご協力にも、

15回目を迎えた今回、

240人を超える

く感謝申し上げます

募集がパリ五輪の時期に重なり、

「臓器提供について」

齋藤 友里子さん (熊谷東小6年)



(中学生の部)

八月三日の読売新聞を読んで感じたこと、



(三尻中3年)

履歴書の 多くが男性だったため、 にパターンを学習させた過去十年

言語や文化の違いを超えて交流を深めることが明在の世界では、インターネットが普及し、

人間と未来をつなぐA

私がよく利用している動画配信アプリを見て

私はそ

こ。に男性を採用している傾向があると分かった。 、私はその記事を読んでAIだからといって安心 でもることによって、そのような事側があ であることによって、そのような問題が解決され であることがAIの魅力だが、このような事例があ 。ることがAIの魅力だが、このような事例があ 。を生かせることとそうではないことの区別の基 を生かせることとそうではないことの区別の基 できているが、AIのメリットは数えきれないほ 足の解消に役立つ。
は、最近私たちの身近なところで多くをつている飲食店の接客ロボットである。接客をつている飲食店の接客ロボットである。接客をでしている飲食店の接客ロボットである。

どである。

法規制が議論されています。鳥羽さんは、覚ましいものがありますが、課題も多く、 れたとき、その臓器を提供するか。私たちについて考えました。家族が脳死と判定さ きたい」と力強く述べています。 間にしか生み出せないものを大切にしてい と、深く考えさせられました。 えを表現できました。家族とは、 ら比較し、まとめています。そして、「人AIの利点や課題を実生活と結びつけなが 規制について考えました。AIの進歩は目 大人でも悩んでしまうテーマに、齋藤さん 中学生最優秀賞の鳥羽さんは、 自分自身と重ね合わせながら思いや考 命とは… の法

年も熊谷市小・中学生新聞感想文コン



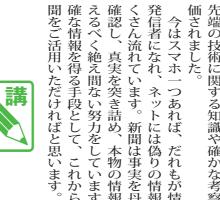






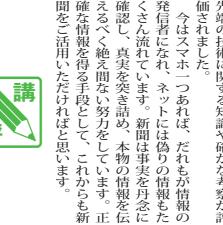
考えたこと

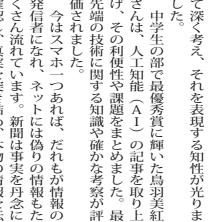




私の臓器を

元気になれる子達につなぎたい





先端の技術に関する知識や確かな考察が評 げ、その利便性や課題をまとめました。最 さんは、人工知能(AI)の記事を取り上 今はスマホーつあれば、だれもが情報の







読売新聞東京本社 熊谷支局 佐藤 秀憲 支局長



家庭学習に最適!!ニュース、図解特集、 マンガ、学習コーナーなどが 充実し、親子で楽しく読めます。





な言葉で自身の考えを表現しています。

小学生最優秀賞の齋藤さんは、臓器提供

会に目を向け、

小・中学生の視点から豊か

ました。どの作品も新聞記事をとおして社

ルに素晴らしい作品が数多く応募され









毎月第1週は、 テストに役立つ 時事ワードが学べる 「時事王」がついてぐる!